

第11回入曽地区中学校統廃合検討協議会資料
平成25年7月24日開催

入曽地区の中学校の統廃合 に関する計画（提言書）

（素案）

平成25年 月

入曽地区中学校統廃合検討協議会

目次

1	計画策定の趣旨	1
2	入曽地区の中学校の状況	1
3	学校の規模と配置の適正化の必要性	3
4	検討協議会における合意事項	3
5	統廃合後の中学校の状況	4
6	通学路	5
7	制服等	5
8	統合先中学校の環境整備	6
9	今後の留意事項	6
10	学校施設の活用方法	7
11	検討協議会の検討経過	7
12	むすびに	10
資料 1	入曽地区中学校通学区域図
資料 2	山王中学校通学路（案）
資料 3	入間野中学校通学路（案）
資料 4	統合までのスケジュール（案）
資料 5	入曽地区中学校統廃合検討協議会委員名簿

1 計画策定の趣旨

狭山市教育委員会では、「狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）を平成19年9月に策定し、入曽地区においては、中学校1校の廃止に向けて取り組む方針を示している。

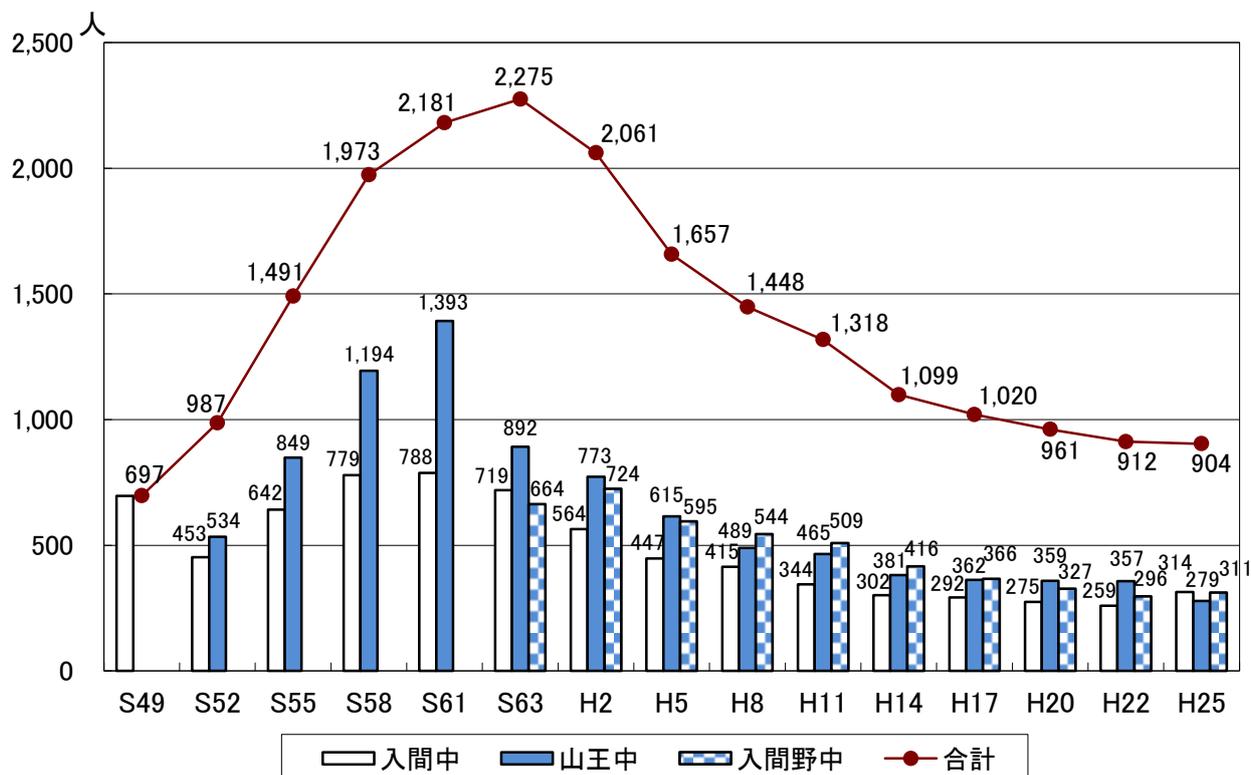
これを受けて、入曽地区では、生徒の保護者の代表、自治会長、中学校長等で組織する入曽地区中学校統廃合検討協議会を平成22年12月に設置し、統廃合の是非も含め、具体的な検討を進めてきた。

この計画は、本協議会における検討協議の結果をとりまとめたものであり、これを提言という形で、狭山市教育委員会へ提出するものである。

「狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」では、統廃合の検討が必要な中学校数は、入間川地区1校、入曽地区1校、合計2校としている。

2 入曽地区の中学校の状況

入曽地区生徒数の推移



区 分	S49	S52	S55	S58	S61	S63	H2	H5	H8	H11	H14	H17	H20	H22	H25
入 間 中	697	453	642	779	788	719	564	447	415	344	302	292	275	259	314
山 王 中		534	849	1,194	1,393	892	773	615	489	465	381	362	359	357	279
入間野中						664	724	595	544	509	416	366	327	296	311
合 計	697	987	1,491	1,973	2,181	2,275	2,061	1,657	1,448	1,318	1,099	1,020	961	912	904

学級数の推移

区 分	S49	S52	S55	S58	S61	S63	H2	H5	H8	H11	H14	H17	H20	H22	H25
入 間 中	18	12	16	19	18	17	15	13	11	10	9	9	9	8	9
山 王 中		13	20	28	33	21	20	17	14	13	11	11	11	11	9
入間野中						16	19	17	15	15	12	11	10	9	9
合 計	18	25	36	47	51	54	54	47	40	38	32	31	30	28	27

入曽地区の中学校の生徒数は、昭和63年をピークに減少を続け、平成25年には、ピーク時に比べて約60%減少している。

学級数も、昭和63年をピークに減少を続け、平成25年には、ピーク時に比べて50%減少している。

生徒数・学級数の推計

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
入 間 中	314 9	317 9	327 9	320 9	316 9	315 9	303 9
山 王 中	279 (13) 9 (3)	303 (13) 10 (3)	297 (13) 10 (3)	310 (13) 10 (3)	277 (13) 9 (3)	275 (13) 9 (3)	276 (13) 9 (3)
入間野中	311 9	319 9	333 10	320 9	299 9	269 9	300 10
合 計	904 (13) 27 (3)	939 (13) 28 (3)	957 (13) 29 (3)	950 (13) 28 (3)	892 (13) 27 (3)	859 (13) 27 (3)	879 (13) 28 (3)

1) 上段は生徒数、下段は学級数で、()内は特別支援学級で外数。

2) 学級数は、中学1年生は38人、中学2・3年生は40人で算出。

入曽地区の中学校の生徒数は、平成27年を境に減少に転じ、今後の人口動向からみても、小規模校化は更に進行することが予想され、3校とも適正規模を確保することは難しい状況が予想される。

3 学校の規模と配置の適正化の必要性

小規模校に関しては、メリット・デメリットの両面あり、議論の分かれるところであるが、小規模校では、生徒の指導や学校運営の面で支障が生じる面があり、一定の学校規模を確保する必要があると考える。

適正規模を確保するための方策としては、学校統廃合又は通学区域の拡大が考えられるが、入曽地区の中学校の場合、将来的な生徒数の減少により、小規模校及びそれに近い学校が隣接することが予想されるため、通学区域の拡大については難しい面がある。

こうした状況を踏まえて、学校教育のより一層の充実を図るためには、統廃合により学校の規模と配置の適正化を図る必要がある。

「狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」では、中学校の適正規模を各学年4～6学級(全学年合計12～18学級)としている。

4 検討協議会における合意事項

本協議会では、入曽地区の中学校の統廃合について具体的に検討協議を進め、次のとおり合意した。

(1) 統廃合の対象校

入曽地区の中学校の統廃合については、中学校の適正規模の視点及び建物や施設の状況等を総合的に勘案し、入間中学校を統廃合の対象とする。

平成23年10月5日開催 第5回協議会で合意

(2) 通学区域の見直し

通学区域の見直しについては、「資料1」のとおり、入間中学校区内を通る西武新宿線の線路を境に、西側の区域を入間野中学校に、東側の区域を山王中学校に分散統合するとともに、併せて、入間野中学校区のうち、御

狩場小学校の通学区域の部分を山王中学校区に編入する。

ただし、山王中学校区となる線路東側の区域については、入間野中学校への通学も可能とする。

また、御狩場小学校の通学区域部分に居住して入間野中学校に通学している生徒で、統合時に中学2年と中学3年になる生徒については、山王中学校に移らず、入間野中学校に在籍したまま卒業することも可能とする。

平成25年3月14日開催 第9回協議会で合意

(3) 統廃合の時期

統合の時期については、平成27年4月とする。

平成25年3月14日開催 第9回協議会で合意

(4) 統合先の中学校の名称

山王中学校及び入間野中学校の名称をそのまま継続する。

平成25年6月5日開催 第10回協議会で合意

(5) 統廃合の方法

山王中学校及び入間野中学校の名称をそのまま継続することに伴い、分散統合とする。

平成25年6月5日開催 第10回協議会で合意

5 統廃合後の中学校の状況

統廃合後の生徒数・学級数の推計

区分	H27	H28	H29	H30	H31
山王中	370 (13)	420 (13)	409 (13)	402 (13)	391 (13)
	11 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)
入間野中	587	530	483	457	488
	16	14	13	13	13
合計	957 (13)	950 (13)	892 (13)	859 (13)	879 (13)
	27 (3)	26 (3)	25 (3)	25 (3)	25 (3)

- 1) 上段は生徒数、下段は学級数で、()内は特別支援学級で外数。
- 2) 学級数は、中学1年生は38人、中学2・3年生は40人で算出。
- 3) 統合時に中学2年生または中学3年生になる入間野中学校の在校生については、全員が入間野中学校に在籍したまま卒業する場合を想定。

6 通学路

(1) 統合後の通学路

入曽地区の中学校の統合後の通学路に関しては、山王中学校については「資料2」のとおり、入間野中学校については「資料3」のとおりとする。ただし、今後の道路の整備状況等を踏まえ、ルートの変更に関しては、柔軟に対応することを望む。

(2) 通学路の安全対策

通学区域の見直しに伴い、通学路に関する改善については、次のとおりとする。

(3) 自転車通学

入間野中学校の通学区域については、通学距離が2 km以上になる区域があることから、自転車による通学を認められたい。

7 制服等

(1) 制服

平成27年4月の統合時、山王中学校及び入間野中学校に編入する中学3年生の制服については、保護者の経済的負担を考慮し、入間中学校の制服をそのまま着用されたい。

また、平成26年4月に入間中学校に入学する中学1年生の制服については、制服検討委員会・・・・・・・・。

(2) 運動着等

平成27年4月の統合時、山王中学校及び入間野中学校に編入する中学3年生の運動着、上履き等については、保護者の経済的負担を考慮し、入間中学校のものを使用されたい。なお、買い替え等が生じた場合は、統合先の中学校の指定のものを購入されたい。

また、平成26年4月に入間中学校に入学する中学1年生の運動着、上履き等については、制服検討委員会・・・・・・・・。

なお、名札については、市から支給されたい。

(3) 部活動ユニフォーム

平成27年4月の統合時、山王中学校及び入間野中学校に編入する中学3年生と2年生の部活動のユニフォームについては、・・・・・・・・。

8 統合先中学校の環境整備

(1) 山王中学校

(2) 入間野中学校

9 今後の留意事項

入間中学校の統合先の山王中学校及び入間野中学校については、それぞれの学校で特色があり、入間中学校の特色との融合が重要であり、十分な調整が必要と考える。また、特色のある教育活動を継続させるため、それぞれの学校で実施している学習支援の取組については、可能な限り取り入れて実施することが必要である。

統合先中学校の施設整備や学校運営等に関しては、学校や保護者からの意見要望に配慮した予算確保が必要である。

統合までの準備期間に、教育に関する保護者意識調査などを実施し、保護者の意向を確認するとともに、常時公開や地域教育懇談会等の開かれた学校に向けた調整を行うことが必要である。

新教育課程による学習内容の増加に伴い、学習内容の未履修が生じないよう各教科の指導計画の調整を図るとともに、新たなカリキュラムの構築も必要である。

生徒数が増加することはもとより、これに伴い、教員数も増えるため、それぞれの中学校で実施してきた部活動の継続を最優先に考えたうえで、可能な範囲で部活動の増設を図り、生徒の選択の幅を広げ、部活動が充実することが必要である。

各学年の校外活動、林間学校、修学旅行については、準備期間に十分な調整を図ることが必要である。

統合については、当事者の精神的な負担を考慮し、事前に交流を図ることや、教員の配置に配慮し、臨時教員の採用、さやまっ子相談員等の増員を図ることが必要である。

10 学校施設の活用方法

入間中学校の跡地利用については、貴重な公共用地であるので、市民の文化活動など様々な活動の拠点として、地域の活性化に寄与するよう、また、防災施設の整備等の地域の要望にも十分配慮して、具体的な計画づくりに取り組むことを願うものである。

11 検討協議会の検討経過

入曽地区中学校統廃合検討協議会や学区部会での検討状況は、次のとおりである。

(1) 検討協議会の検討状況

第1回 平成23年 1月20日

基本方針の内容を確認したうえで、入曽地区の中学校の現状、生徒数及び学級数の今後の見込み、小規模校の課題等について説明を行った。

第2回 平成23年 5月25日

入曽地区の各中学校を統廃合した場合の効果及び課題点を挙げながら、統廃合の必要性について意見が交わされた。

第3回 平成23年 7月21日

小規模校（11学級以下）では、集団教育が阻害される、教科学習や指導が十分にできないなどの課題が指摘されるなかで、小規模化が進む入曽地区の中学校の現状を踏まえつつ、その問題点について意見が交わされた。

第4回 平成23年 8月24日

基本方針及び狭山市教育振興基本計画が示すとおり、入曽地区の中学校の統廃合を進めていく方向で意見が集約された。

第5回 平成23年10月 5日

入曽地区の中学校の統廃合については、「入間中学校」を統廃合の対象校とすることで合意が得られ、今後は、具体的な検討が進められることとなった。

合意事項

入曽地区の中学校の統廃合については、校舎の老朽度や運動場の面積などを総合的に勘案し、入間中学校を統廃合の対象校とし、今後は、通学区の見直しや統廃合の時期等について、具体的に検討を進める。

第6回 平成24年 1月27日

小学校関係者を協議会委員に加えること、新たに部会を設置することが確認された。

第7回 平成24年 3月21日

平成24年度の委員構成及び通学区域の見直しを行う学区部会を設け、検討を進めることになった。

第8回 平成24年12月19日

学区部会での検討状況を報告するとともに、改めて「入間中学校」を統廃合の対象校とすることの確認がなされた。

第9回 平成25年 3月14日

学区部会第5回会議において、学区の見直し案の方向性が示されたことに伴い、特別許可地区を設定した通学区域の見直し及び統合の時期についての合意が得られた。

合意事項

・通学区域の見直し

通学区域の見直しについては、入間中学校区内を通る西武新宿線の線路を境に、西側の区域を入間野中学校に、東側の区域を山王中学校に分散統合するとともに、併せて、入間野中学校区のうち、御狩場小学校の通学区域の部分を山王中学校区に編入する。

ただし、山王中学校区となる線路東側の区域については、入間野中学校への通学も可能とする。

また、御狩場小学校の通学区域部分に居住して入間野中学校に通学している生徒で、統合時に中学2年と中学3年になる生徒については、山王中学校に移らず、入間野中学校に在籍したまま卒業することも可能とする。

・統廃合の時期

統合の時期については、平成27年4月とする。

第10回 平成25年 6月 5日

統合先の中学校の名称についての合意が得られ、本提言書（入曽地区の中学校の統廃合に関する計画）の内容について検討を進めた。

合意事項

統合先の中学校の名称については、山王中学校及び入間野中学校の名称をそのまま継続する。このことに伴い、統廃合の方法は、分散統合とする。

第11回 平成25年 7月24日

第12回 平成25年 月 日

第13回 平成25年 月 日

(2) 学区部会の検討状況

第1回 平成24年 6月20日

学区の見直し案を提示し、それらの案について意見を求めた。

第2回 平成24年 7月25日

学区の見直し案を提示し、それらの案について意見を求めた。

第3回 平成24年 9月25日

予想される通学路について、学区部会委員により調査することになった。

・学区の見直しに伴う通学路実地調査

通学時間帯に、予想される通学路を学区部会委員で歩き、危険箇所などの問題点の調査を実施した。

10月10日 石山記念病院近辺から山王中学校まで 約4.1km

10月12日 水野公民館から入間野中学校まで 約2.8km

第4回 平成24年11月21日

次回の会議で学区の見直し案の方向性を決めることとした。

第5回 平成25年 2月 5日

学区の見直し案としては、④案で進める方向で合意が得られた。

12 むすびに

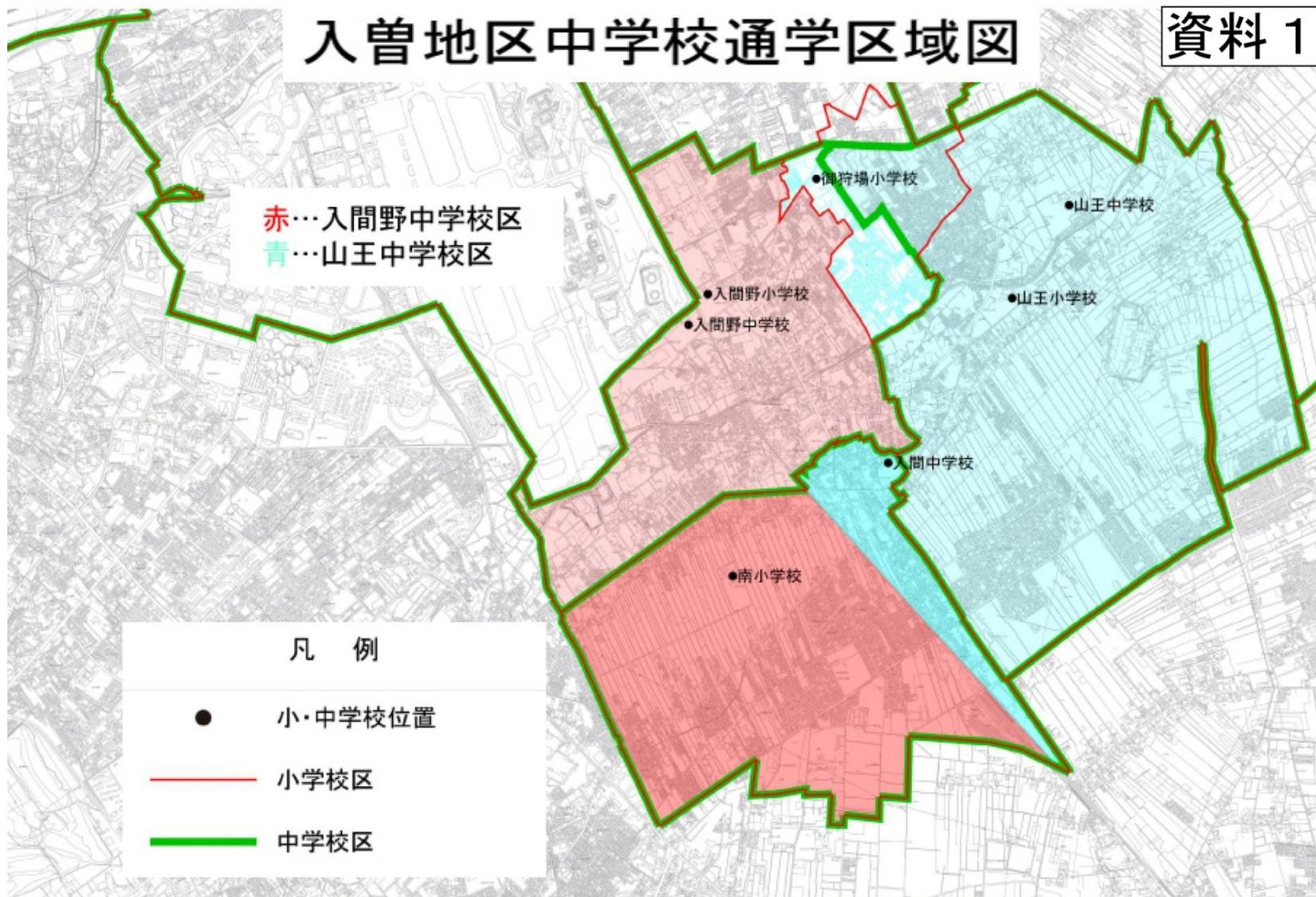
・・・・・・・・・・。

平成25年 月

入曽地区中学校統廃合検討協議会
会 長

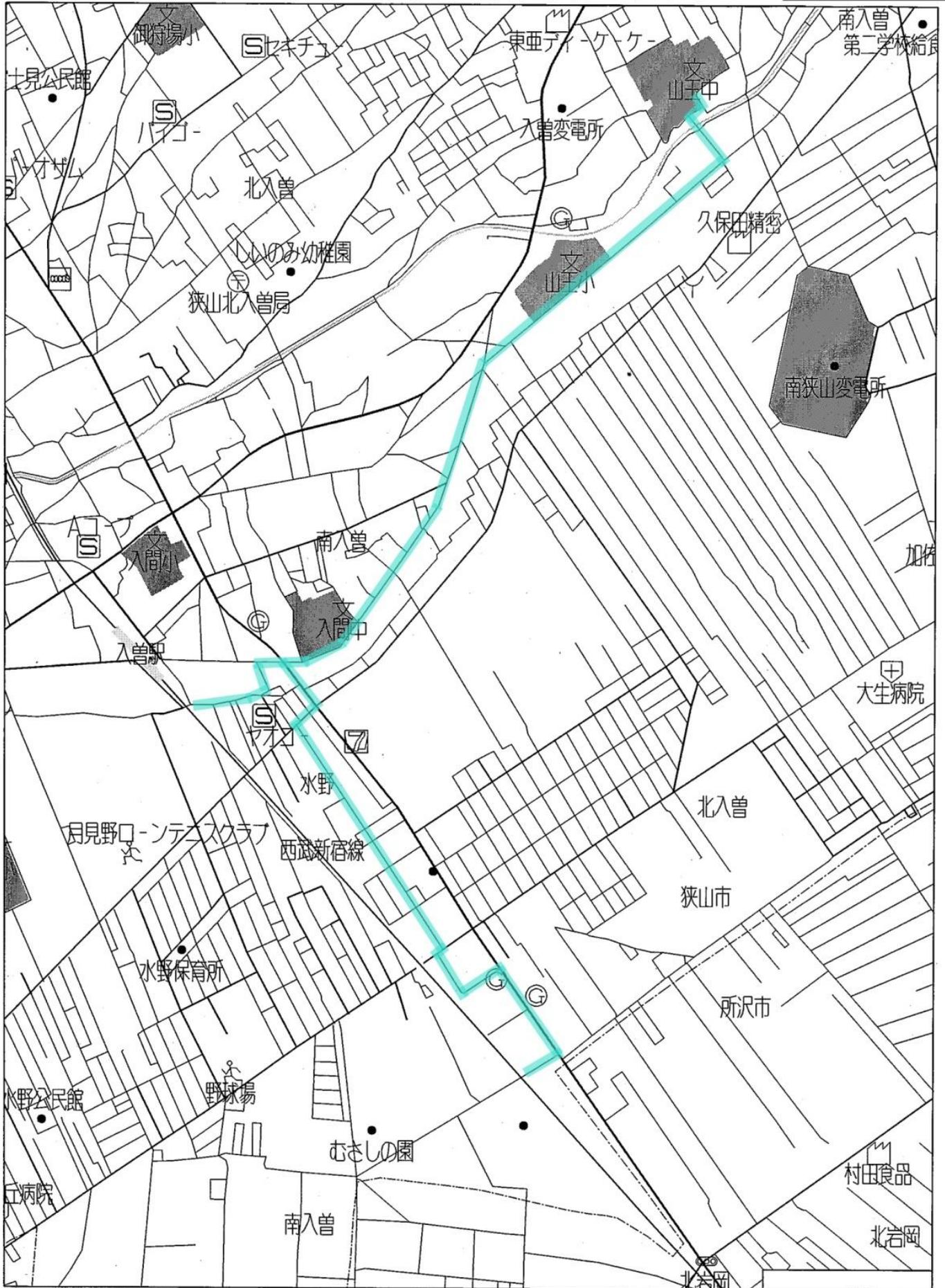
入曽地区中学校通学区区域図

資料 1



山王中学校通学路（案）

資料 2

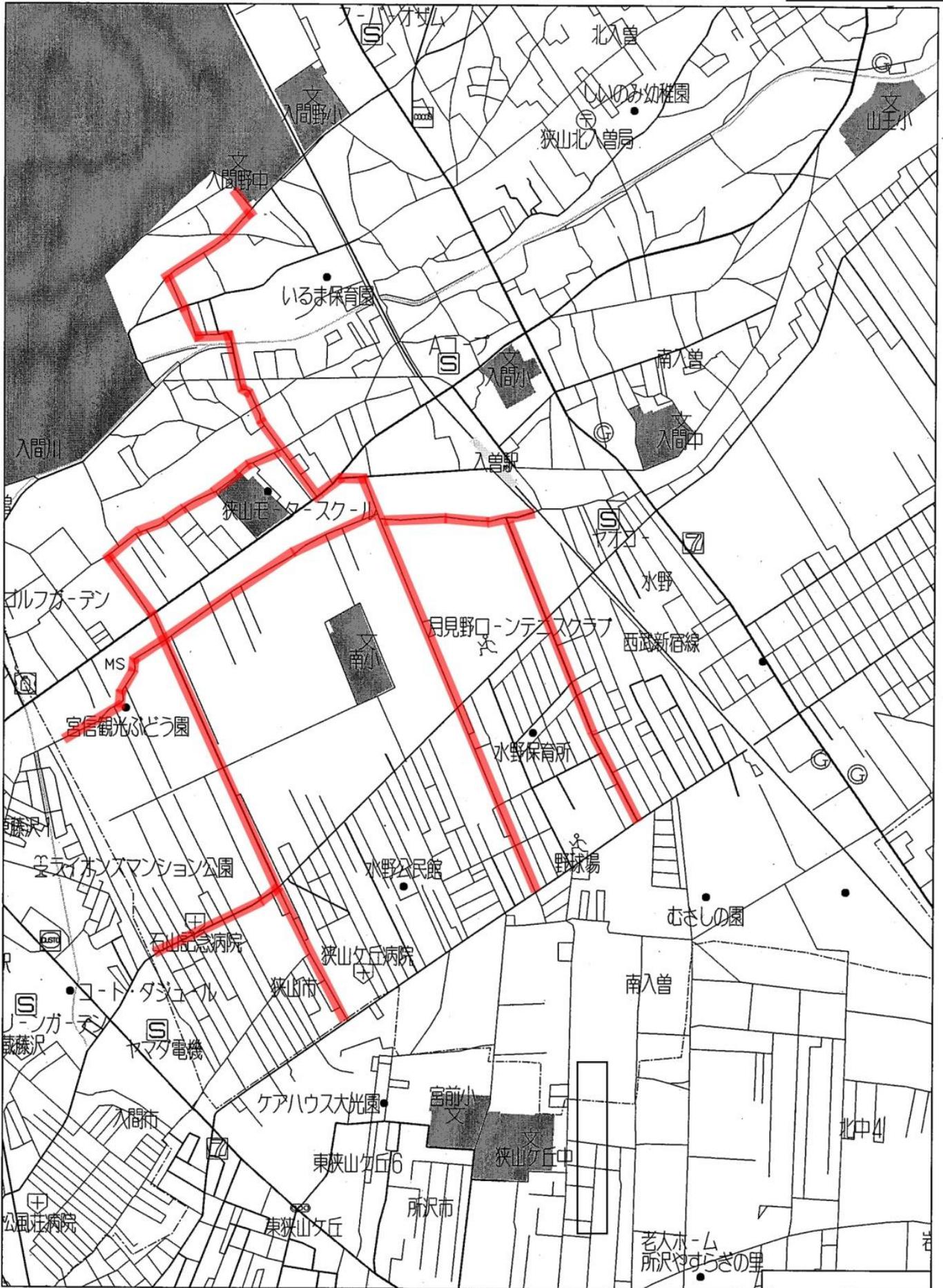


狭山市大字水野付近

縮尺 1 / 11,000 

入間野中学校通学路（案）

資料 3



狭山市大字水野付近

縮尺 1 / 12,000 360m